

徳島大学  
女性研究者

# Woman<sup>2</sup>

徳島大学女性研究者ロールモデル集



# 徳島から世界へはばたけ、研究者!

～メッセージ～



香川 征 / Susumu Kagawa  
徳島大学長

## 次世代を担う人材育成への貢献

現在わが国が直面している厳しくかつ困難な状況の中で安全かつ安心な社会を構築するため、国立大学には次世代を担う卓越した人材の育成をすることが期待されまた責務となっております。すなわち、ナショナルセンター機能（国際的な教育研究ネットワークの一員として高度の教育研究とイノベーションの推進）およびリージョナルセンター機能（地域振興をはじめとする地域貢献）の強化が必要となっております。そのような状況の中で女性研究者の役割はますます重要な役割をおびてきています。そのため色々な試みが行われていますが、女性研究者が多くなり、多様な個性を持った人のロールモデルになることが必要です。自分に合った学びとりたい行動ができる人、理解、観察、分析が必要で、もちろん多くの人は無意識のうちにロールモデルを選び、多少の差はあるとはいえその影響を受けていると思います。今一歩踏み込んで行動することで自分のキャリアアップ、人材育成への貢献ができるのではないのでしょうか。



五十嵐 義明 / Yoshiaki Igarashi  
徳島大学理事（総務・財務担当）  
徳島大学副学長  
徳島大学事務局長  
徳島大学男女共同参画推進本部長

## 多様な働き方・生き方が選択できる大学へ

我が国が将来にわたり、活力ある社会を創造していくためには、多様な人材の能力を活用するとともに、多様な視点を導入し、新たな発想を取り入れていくことが重要です。徳島大学は、教職員一人ひとりが、やりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できるワーク・ライフ・バランスの実現に向けて一歩一歩前進してまいります。

そのために必要となる、(1)仕事管理や時間管理など人材マネジメントと働き方の改革。(2)制度を導入するだけでなく、その制度が活用できる人材マネジメントを日頃から行う。(3)教職員の多様な価値観やライフスタイルを受容できる職場風土とする。などの取組を大学全体で推進してまいります。

女性研究者よ、魅力ある大卒作りのためその持てる力を積極的に発信しよう!



本仲 純子 / Junko Motonaka

徳島大学AWAサポートセンター長  
特任教授  
元徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部教授  
物質機能化学  
徳島大学男女共同参画推進本部員

## ロールモデル集第2号の発行

助手になって数年目、京都の山の上でボーフロ討論会が開催されました。全国から参加した女性研究者7、8名がバンガローの一室に泊まり、女性研究者の苦労話を語り明かした事があります。尊敬する先生の話が今も印象に残っています。「主人（研究者）に励まされました。例えノーベル賞に値するほどの研究をしているとしても、子供を産み育てることのメリットは同じくらい大きい。子供を通して人間のにも成長するので学生の教育にも良い効果がある。少しの

期間は周囲に迷惑を掛けるかも知れないが、将来、学生の教育や研究等を通してお返しすればよい。その考え方に同感し、私も先生のようになりたいと思いました。

我が国における女性研究者の割合は、国際的に見て著しく低く、また女性が研究者を志す上での参考となる身近なロールモデルが乏しいこともあり、将来像を描きにくいのが現状であります。

このような観点から、ロールモデル集第2号を発行させていただきます。



玉置 俊晃 / Toshiaki Tamaki

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部長  
徳島大学医学部長  
徳島大学大学院医科学教育部長  
徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部教授  
薬理学分野  
徳島大学男女共同参画推進本部員  
徳島大学AWAサポートセンターアドバイザー

## 女性医師への期待

徳島大学医学科においても女子学生の割合が30%を超えており、女性医師の活躍に対する期待が年々大きくなってきています。女性医師が活躍する場は全ての分野に広がっており、メスを持つ外科系の分野に進む女性医師も増えていきます。

一方、地域医療と基礎医学分野における医師不足は深刻であり、女性医師が活躍できる余地が大きいと思います。苦しむ患者さんや悩める患者さんに、単に医療を提供するだけでなく優しく寄り添って共感的態度を示すのは、女性の方がより上手ではないかと思えます。生命科学の疑問を解決するために、根気強く地道に研究を積み重ねていく必要がある基礎医学分野でも、粘り強い女性に向いているように感じます。

女性医師が持てる能力を充分に発揮できるように医学部の体制を整えていきますので、多くの医学・医療分野で女性医師が活躍することを期待しています。



葉久 真理 / Mari Haku

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部教授  
助産学分野  
徳島大学男女共同参画推進本部員  
徳島大学AWAサポートセンターアドバイザー

## 共感できる働き方

AWAサポートセンターのオープンから早一年が経とうとしています。

センター開設の目的の一つは、自分らしい働き方（AWA（阿波、OUR）スタイル）の実現を支援することですが、皆さんは自分らしい働き方を見つけているでしょうか。

6月に開催された女性研究者交流会では、病院内にあるあゆみ保育園に、子ども達が一緒に通ったお母さんたちと久しぶりの再会の場となりました。お昼寝布団を肩にかつき、泥だらけの服を持って行き来したあの頃が懐かしい。早、大學生となった子どもさんや、中学・高校生となった子どもたちの生活などについてお話しすることができ、子育ての楽しさや苦労を共有した時間でした。センター企画では、女性研究者の異文化間研究交流などもあり、他領域の方と研究について語り合いアイデアを発展させる良い機会となります。様々な企画に参加いただき、ロールモデルとなる方をたくさん見つけてください。

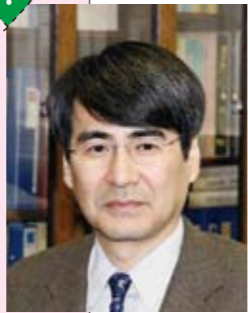
男女共同参画推進本部  
コメントリレー



神代の昔から我が国の歴史は女性の活躍で彩られています。これは日本女性が遺伝子的に優秀であることの証明に他なりません。徳島大学の女性教職員の皆様は、本来の實力を十分に発揮されることを期待しております。

際田 弘志 / Hiroshi Kiwada

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス副研究部長  
徳島大学薬学部  
徳島大学大学院薬科学教育部長  
徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部教授  
薬物動態制御学分野  
徳島大学男女共同参画推進本部長



喫緊の課題である男女共同参画には、女性も男性もその意志と能力が尊重され、それに応じて活躍できる環境を整えることが大切です。しかしより重要で、原動力になるのが、「○○○のようにになりたい」という憧れです。

市川 哲雄 / Tetsuo Ichikawa

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス副研究部長  
徳島大学歯学部  
徳島大学大学院口腔科学教育部長  
徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部教授  
口腔顔面補綴学分野  
徳島大学男女共同参画推進本部長



私たちの研究部の目指すところは「総合性」と「学際性」です。この目標達成のためには文理融合とともに、男性と女性両サイドからの研究の調和も必要不可欠です。男女共同参画こそ私たちの研究部充実発展の力になります。

石川 榮作 / Eisaku Ishikawa

徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部長  
徳島大学総合科学部長  
徳島大学大学院総合科学教育部長  
徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部教授  
人文科学分野  
徳島大学男女共同参画推進本部長



徳島大学病院看護部では、より良い看護サービスの向上を目指し、個々の看護師が夢と誇りを持ち、やりがいのある仕事と充実した私生活のバランスを取る「ワークライフバランス」の実現に向けた支援を行っています。

木田 菊恵 / Kikue Kida

徳島大学病院看護部長  
徳島大学病院長補佐  
徳島大学男女共同参画推進本部長



超少子高齢化により、2055年の日本では15〜64歳の生産年齢人口が半減すると予想されています。今こそ皆で知恵を出し合い、女性研究者が子育てをしながら能力を発揮できる社会の仕組みを整える必要があると思います。

山内 あい子 / Aiko Yamauchi

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部教授  
医薬品情報学分野  
徳島大学男女共同参画推進本部長  
\* 徳島大学AWAサポートセンター副センター長



私の長所は楽観的なところで、短所はいい加減なところと短所が時に入れ替わることがあります。楽観的すぎて失敗したり、いい加減なために助かったりすることが時々あります。しかし、困難を伴う研究には楽観的な性格が必要と考えます。男・女研究者とも楽観的にかんばって欲しいものです。

安井 夏生 / Natsuo Yasui

徳島大学病院長  
徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部教授  
運動機能外科学分野  
徳島大学男女共同参画推進本部長



少子化時代における工学部の発展は、女子学生を数多く迎え入れられる教育組織の見直しに加えて、女性教員の比率が高められる環境整備が求められており、徳島大学AWAサポートセンターの取り組みに期待しています。

大西 徳生 / Tokuo Ohnishi

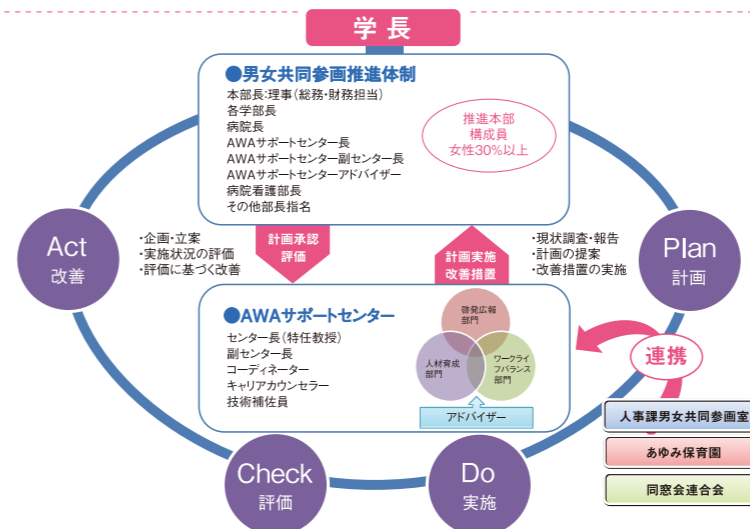
徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部長  
徳島大学工学部長  
徳島大学大学院先端技術科学教育部長  
徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部教授  
エネルギー変換工学  
徳島大学男女共同参画推進本部長

AWAサポートセンター

AWAサポートセンターは、本学における男女共同参画推進事業を実施し、社会に率先して男女共同参画の実現を図り、多様性と発展性をもたらす教育・研究環境の醸成を目的として、平成22年10月に設置されました。  
平成22年度科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」に「徳島AWA(OUR)サポートシステム」が採用され、男女共同参画本部と連携してその実施母体として3つの部門(①啓発広報部門②人材育成部門③ワークライフバランス部門)を中心に女性研究者支援に取り組んでいます。  
さらには全学的な男女共同参画の推進とワークライフバランスの実現を目指し、本事業を推進しています。

男女共同参画推進本部

大学は、多様な人材を基盤とした教育・研究の場であればなりません。そのためには、互いの人格を尊重し、個々の能力を発揮して活躍できる環境を整えていくことが必要です。  
本学では、平成21年12月に男女共同参画を宣言し、男女共同参画の推進体制を強化することを目的として平成22年7月に男女共同参画推進本部を設置しました。  
男女共同参画推進本部は、AWAサポートセンターと連携して、男女共同参画推進に係る基本方針の立案、その実施状況の点検・評価・改善等を行い、男女共同参画を全学的視野で強力に推進しています。  
徳島大学男女共同参画宣言では、一人ひとりが高い意識をもって互いの人権と人格を尊重し、誰もが個性を発揮できる環境を目指し、男女共同参画社会の実現に貢献することを宣言しています。



男女共同参画推進体制

徳島大学  
AWA (OUR)  
サポートシステム

AWAサポートセンターは、啓発・広報部門、人材育成部門、WLB支援部門の3つの部門を置き、各部門の教員が協力して女性研究者支援のための「徳島大学AWA(OUR)サポートシステム」の構築に取り組んでいます。

Masako Sei



# 勢井 雅子

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部助教  
人類遺伝学分野(公衆衛生)  
博士(医学)

**略歴**  
高校時代、周りの理系女子は薬学を目指していた中、医療系ならいっそ医学部をと思い受験、入学。卒業後は麻酔科で研修を受け、初めての子育てをしながら公衆衛生学博士課程修了。検査部、老人保健施設勤務を経て、現在は再び公衆衛生学の分野に戻り研究職に就く。



今までの研究成果が  
詰まった記録メディア。

My Favorite

## 好きな学問があるなら研究者を目指してほしい

**子どもの健康のための地道な活動**  
研究の中心になっているのは小児生活習慣病の予防のための体格データや肥満外来データの解析、県の教育委員会や医師会と連携したシステム作りです。「なぜ徳島県には肥満が多いのか」という疑問に対し、世の中で言われている「車社会だから」とか、「カロリーの摂りすぎだから」といった答えはあくまで予測にすぎず、疫学的なはずりとした理由づけはなされなままです。それでも正しい食事と適度な運動によって改善されるであろう問題だということも明確なので、疫学的な部分をできる範囲から明らかにしようという、効率の悪いような研究です(笑)。

### 再出発を決めた恩師との出会い

10年前、たまたまお茶を飲みに寄った教室で、公衆衛生のスタッフを探していた前任の故・中堀教授に声をかけられてお手伝いを始めたのが、この分野に足を踏み入れたきっかけでした。私は老人保健施設からの転職だったので老人保健もテーマにしたかった

### 研究者ほど魅力的な仕事はない

何か好きな学問があつてそれを続けていきたいと思う人にはぜひ研究者への道を歩んでください。ひらめきに優れている人、地道にコツコツ積み上げて行ける人、それに私のように他人の手伝いをするのに充足を見いだせる人。いろいろなタイプの人間が集まり、様々な自線で研究することで、きっとその分野は少しずつ前進していきます。何を研究するべきか、「そのために何をすべきか」など、研究者ほど自由な裁量を持つ魅力的な職は他に無いと思います。

### 今の私にできることを精一杯

挫折と失敗と反省を繰り返して、出産を理由に半ばリタイア状態になったり、続けようと思っただけを諦めてしまったり...といった感じで今に至るまで、「積極的に自分の道を選んできた」とは胸を張って言えない立場だと自覚しています。ですが公衆衛生という広い分野で私のように浅い知識と経験でもお役に立てることがあるのなら協力したいと思いきな活動ができるように努力したいと思っています。

Megumi Kuwabara



# 桑原 恵

くわばら めぐみ

徳島大学大学院  
ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部教授  
人文科学分野  
徳島大学総合科学部 人間文化学科長  
博士(文学)

**略歴**  
大阪生まれ、大阪育ち。大阪大学文学部1年生の時に受講した歴史の講義に感動したことをきっかけに日本史を専攻、博士前期課程・後期課程と進み、鳴門教育大学へ助手として就職。その後ずっと徳島県民として現在に至る。2003年に文学博士を取得。

## 古文書は人と人の心をむすぶ

「日本史を勉強したい!」と思うようになり、  
**苦勞の中で出会った研究テーマ**  
日本史に興味を持ったのはいいのですが、いざ入門書といわれる本を開いてみても全く意味が分からない状態だったので、同じ進路を目指す数人と一緒に、文学部の国史研究室の助手の方や博士



My Favorite

今まで集めてきた古文書。

### 価値観を変えてくれた100分の講義

子どもの頃はこつこつ勉強するのが苦手なタイプで、特に「理解できなくても覚えればいい」という暗記が大嫌いでした。ですから、ただ覚えるだけの日本史も好きではなかったんです。でも大学に入学してすぐの日本史の講義で先生が大化の改新について日本書紀の一文を使い自分なりの解釈を盛り込んだお話をしてくださったのを聞いて驚きました。歴史は答が決まっている学問に思われがちですが、定説に囚われずに考えたり、違う角度からの見方を見つかることで塗り替えられていくことなんだと気がかされ、  
**自分の感性と可能性を信じて**

自分が好奇心を持っているものを大事にすること。若い人たちは「自分が思っていることなんてたかが知れている」と考えがちかもしれないが、そんなことはないと思います。もし他人に理解してもらえなくても、その好奇心を育てることがきっと何か大きな結果につながっているはずですから。

### 貴重な資料を見せてもらうことに感謝しながら

出版物を含めて江戸時代の資料は見つからないものも山ほどありますが、資料探しのフィールドワークも大切な活動のひとつです。旧家の古い蔵などから見つかることもあります。大切に所蔵されている資料は所蔵者からの信用を得なければ見せていただくことができません。その信用を裏切らないよう、そしてそれを記したご先祖の意図を曲げないように、冷静な目で分析することも重要だと思っています。

課程の先輩の力を借りて自主ゼミを立ち上げました。その時に読んだ江戸時代の民衆思想に関する論文がとても興味深く、それは今でも私の研究テーマにもつながっています。身分制度がある中で、民衆が何を考えて生きていたのか、どう生きるべきだと考えていたのかは、今の時代を生きている私たちにも参考にできる部分があると思います。

Hiroe Tani

### 子どもの幸せと健康のために

**虐待・一次予防と特製糖尿病の支援**  
私は現在、子どもの虐待の一次予防と、1型糖尿病の子どもの家族に対する支援に関する研究を進めています。核家族化や地域との連携が希薄になることによるサポート不足、つまり子育ての孤立化によって子育てを楽しむことができず、育児のストレスから子どもを虐待してしまうという不幸なケースが多く流れる今の社会で、看護師や助産師は妊娠・出産を、また保健師は地域で育児を支援するなど、看護職は重要な役割を担っています。具体的にはどのような支援が効果的なのか、支援の効果をどのように評価するべきなのかを考え、支援技術の向上を目指した取り組みをしています。

**隣の家に生まれた赤ちゃんを**  
かわいがった子ども時代  
小児看護に進みたかったのは、もともと子どもが好きだったという理由が大きいですね。小学校の時に隣の家で赤ちゃんが生まれた時、すごく嬉しくて毎日守りにいくほどでした。笑。自分の子どもを育てるようになった今は、実際の子育ての体験から「子どもは自らの意志を持った、自分とは別の人間なんだ」と実感できるよになり、より一層子どもと親それぞれの立場に立つて考えることができるよになったと思います。

#### My Favorite

子どもの写真と  
子どもからの手作りプレゼント。



**もらった優しさを次の世代へ**  
実は、妊娠中に切迫流産で3か月入院した時期がありました。結局無事に出産はできたのですが、入院中には「仕事で他の人に迷惑をかけているのではないか」とかなりの焦りがありました。でもある先輩が私の抜けた部分をカバーしてくれた上に「今あなたがするべきことは出産なのだから、気にしないで。私も出産の時は職場のみんなにたくさん助けってもらったのだから、その恩を返しているだけ。あなたも将来、同じように後輩を助けてあげて」と言ってくれたことが忘れられません。研究という仕事は毎日の仕事量が決まっているわけではないので定時でバツと終われるものではありませんが、子育てをしている後輩が早く帰りたいような環境を作ったりして、あの時に受けた恩を次の世代へつないでいくことが今の私の役目だと感じています。



# 谷 洋江

たに ひろえ

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部准教授  
子どもの保健・看護学分野  
博士(看護学)

略歴  
人と接することが好きで、子どもの頃から教師や看護師に憧れる。迷った結果、徳島大学病院附属看護学校に進学。卒業後は徳島大学医学部附属病院で勤務。当時、看護師教育が4年制化されたので、看護学校の先生の勤めもあり通信教育で大学を卒業。徳島大学医療技術短期大学部の助手として勤務するが、教育・研究職を続けるためにも一旦仕事をやめ、修士を修了後再び徳島大学医療技術短期大学部で勤務。その後、千葉大学大学院看護学研究科にて博士(看護学)を取得。2010年より現職。

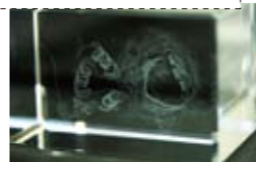
### 医学に貢献できる喜びを感じながら

**博士号はゴールではなく始まり**  
学部の1・2年は英会話サークルでスピーチやディスカッション、英語劇などに没頭しており、研究とは無縁の生活で、ようやく実習や実験にベクトルが向いてきたのが、3年になってからでした。3年の後半にはメンタルな部分で体調を崩してしまつた時期もありましたが、研究に打ち込むことでそれも乗り越えることができました。学生時代には博士取得という節目が最終目標のように感じていたのですが、実際にはアカデミックなポジションで研究を続けるよになつても研究手法から研究者としての心構えまで学ばなければいけないことだらけで、むしろこれからの本番だと思つた日々の連続です。

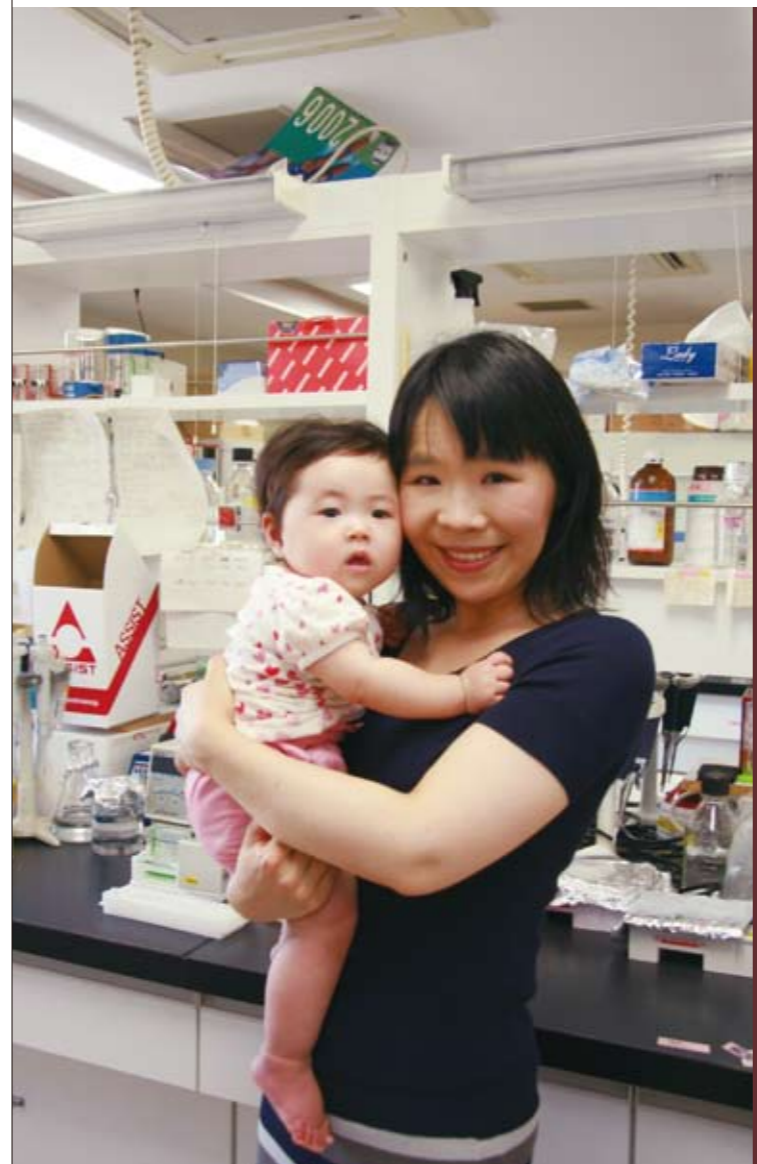
**世の中から必要とされる研究に取り組み**  
現在は長く使わないことで筋肉が萎縮してしまう、いわゆる廃用性筋萎縮の原因となるタンパク質・ユビキチン酵素(UBA)の阻害剤の研究に取り組んでいます。寝たきりの生活を送る人や宇宙飛行士などの筋萎縮の予防治療は、今のところリハビリテーションやトレーニングがなく、治療は開発されていません。また、こういった運動療法も、すでに萎縮が進行している筋肉に運動負荷をかけることが難しい点が指摘されており、筋萎縮治療は

#### My Favorite

自身の決定したタンパク質の  
構造モデルが刻まれたクリスタル。



**臨床現場からも強い開発ニーズ**  
があります。今までの活動は基礎研究の分野が多かったのですが、医療とつながる研究テーマに出会って嬉しく思っています。  
支えてくれた恩を忘れない  
昨年の10月に長女を出産してからは、やはり家庭と仕事の両立はそれなりに大変でした。それでも夫が同じ分野で研究職についていることもあり、仕事について理解してくれた上で家事や育児も手伝ってもらえるのでとても助かっています。しかも腹下出血から復帰したばかりにもかかわらず遠方から何度も家事を手伝いに来てくれる母、体調や家のことを気遣ってくれる教授と所属研究室の皆さんなど、多くの人の支えを本当にありがたく思います。応援してくれる方々の恩に報いるためにも、今後は「これが自分のライフワーク」と胸を張って言えるような研究ができればいいなと思います。



# 真板 綾子

また あやこ

(旧姓 大野)

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部助教  
先端栄養学教育研究プロジェクト  
博士(理学)

略歴  
東京都立大学理学部化学科を卒業後、同大学大学院理学研究科修士・博士課程を修了し、構造生物学の研究で博士(理学)を取得。その後、三つの研究機関(横浜市立大学大学院総合理学研究科博士研究員、理化学研究所基礎科学特別研究員、京都大学大学院工学研究科分子工学専攻プロジェクト研究員)で、様々なタンパク質を標的とした構造生物学の研究を行う。2009年より現職。

Ayako Maita



# 東 満美

あずま まみ

(写真・左)

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部准教授  
臨床薬学実務教育講座  
薬剤師  
博士(医学)

略歴  
徳島大学薬学部薬学科卒業。(財)厚仁会薬局で薬局薬剤師として働きながら学位取得。病院薬剤師(徳島大学病院薬剤部)を経て2006年徳島大学薬学部へ。2007年より現職。

### My Favorite

主人が育ててる、我が家のバラ。



## 薬剤師の存在意義を確立していききたい

薬剤師という仕事を意識し始めたのは、小学校が中学校の頃だったと思います。ある時病院の中で働く薬剤師を見て、「あの人は医師でもないし看護師でもない、いったいどんな仕事をしているんだろ?」と興味を持ったのが最初でした。そして薬を通して周囲の人々や社会の役に立てるという点に魅力を感じて薬剤師を志したのですが、薬剤師という仕事の役割を本当に理解したのは、実際に薬剤師としての仕事を始めてからでした。医療にたずさわっているという自覚や、患者さん本位で考えるというよ

初めの6年制課程卒業を前にして  
以前は4年制だった薬学部ですが、平成18年度より6年制教育の薬学科と4年制の創製薬科学科に分けられており、現在は主に薬学科の実務実習指導を中心に薬剤師養成のための教育に力を注いでいます。平成23年度はその6年制課程初となる卒業生を送り出すこととなります。  
興味を惹かれた  
薬剤師という存在

患者さんからすれば、薬物療法であっても医師に相談するのがまだまだ一般的な感覚で、薬剤師といえば薬局や病院の窓口で薬を販売したり、調剤したりするだけのような存在に思われがちです。もっと自分の使っている薬についての疑問や悩みを自然に相談してもらえて、同時に患者さんにも最適な薬の提案ができるような患者さんからも医療スタッフからも薬のスペシャリストとして認められる薬剤師の地位を築いていければと思っています。

大切なつながり  
薬剤師という職業はもともと女性が多い世界です。でもここまですべてこれだけの周囲にいる人々の助けがあつてこそ。その人々との繋がりは、今でも私の一番大切な財産です。  
頼られる薬剤師であること  
患者さんからすれば、薬物療法



## 歯科医として、教育者として、研究者として

部活色だった学生時代  
母親は私に白衣を着る仕事をさせたかったようで、「歯科医になりなさい」と小さい頃から吹き込まれていたんです(笑)。だから特に疑問も持たずに歯学部に進学しつつも、学生時代にはバドミントンに明け暮れていたのです。それでも大学院を出てからは数多くの患者を診療し、高齢者の治療にあたる経験から研究テーマとなる興味に出会えたことは、今の私に役立っています。  
「食べることを科学する」  
歯科医としては補綴(ほてつ)、つまり入れ歯や差し歯で咀嚼や嚥下、発音を回復させる専門職で、そこから発展させて咀嚼して食べるということが全身や脳にどのようにプラス効果をもたらすのかを調べています。他にも高齢者歯科治療と専門的栄養指導の相乗効果、顎顔面補綴装置の客観的評価方法の確立など、前任地の九州大学に残してきた大学院生の指導を続けているものも含め進行中の研究も多くあります。が、こちらにはまだ4月に赴任したばかりで、徳島で何ができるかを模索中の状態です。  
子どもに向ける愛のサイン  
大学の歯科医には診療、学生への教育、そして自分の研究という3つをこなさなければなりません。が、それらはそれぞれ3分の1の力配分ではなく、すべてに



### My Favorite

娘の手作りストラップ。

100%の力が要求されます。どうしても時間の制約ができてしまうので子育ても大変でしたが、ママ友を作り子育ての悩みを相談したり学校の情報を得て子どもとの会話のネタを作り、「あなたに関心があるのよ」とサインを送ることも忘れませんでした。  
独立できる  
歯科衛生士を目指して  
通常の歯科衛生士教育は3年制ですが、徳島大学では全国でも数少ない4年制教育を実施しており、私もその指導にあたっています。本校を卒業すると社会福祉士の受験資格も得ることができ、歯科衛生士と社会福祉士のダブルライセンスを持つことで、増えていく高齢者からのニーズに応えることができる人材を育てていけると考えています。ゆくゆくは歯科衛生士が独立して開業している米国(一部)のように、社会的にも存在感のある歯科衛生士を育てていければと思っています。の教育に取り組んでいます。



# 松山 美和

まつやま みわ

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部  
教授  
口腔機能福祉学分野(歯学系)  
徳島大学病院 歯科衛生副室長 歯科医師  
博士(歯学)

略歴  
歯科医になろうと思い、地元の国立大学(旧帝大)である九州大学歯学部に入學。研修医制度がまだ義務化されていなかったため、研修医として医局で3年間、臨床の勉強をするよりは1年延長して大学院へ進学し博士号を取りたいと思い、同大学院歯学研究科博士課程に進学。結婚・出産を経て大学院を修了し、博士号を取得。

Hiroimi Sato



# 佐藤 弘美

さとう ひろみ

徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部  
助教  
社会基盤システム工学  
博士(工学)

**略歴**  
美術や芸術が好きで、工学の中でも芸術の分野にも関わりのある建築に興味を持ち、東京都立大学工学部建築学科に入学。その後、同大学大学院(現首都大学東京大学院)工学研究科建築学専攻に進学し、博士課程を修了。

## 研究者は興味を興味のまま終わらせない

木造建築について本格的に学び始めたのは、大学4年の時にゼミに配属されたから。授業で習ったとだけでは満足できなかったので、修士課程に進みましたが、研究の

**目指すべき道、目指すべき人**

住んでいる人の安心にもつながりますし、今の私たちが安心して住める家づくりに役立てることができればと思っています。また共同研究では比較的新しい建物や新築の住宅の性能評価に関わることもあります。



My Favorite

ペンや小物入れなど、木で作られたアイテム。

**伝統的な建物の構造を見つめて**

木造建築の構造性能を評価する研究をしています。古民家などをメインで扱っていて、祖谷や脇町など徳島県下をはじめ、あちこちで古い建物について調査を行って頂いています。町家で構成された古いまちなみは日本各地に残されていますが、それらは歴史的価値の面で評価がなされていて、構造性能に関しては十分に検証されていない場合が多いんです。そういったものの性能評価を

**古い建物が持つ美しさに心ひかれて**

年代や地域によって建物の構造に違いはありますが、長い間その姿を保ってきた建物自体の美しさには心奪われるものがあります。それは木造建築に限ったことではなく、ヨーロッパなど海外で古い教室を訪れた時にも感じます。この分野で研究していると五重塔や東洋最古の天文台など、普通では入れない場所も調査のために立ち入らせていただけたこともあって、多くの貴重な経験をさせてもらっています。

**研究に取り組む以上は結果を残す**

研究する上では、視野を広く持つていたいと思っています。研究のきっかけは個人の興味から始まったものと思いますが、自己満足やひとりよがりな研究になってしまわないよう、最終的に社会にどんな形で還元できるのかを考えるべきだと思います。特に私の研究は人の暮らしの安全に密接に関わっていますから、興味から始まった研究が興味のまま終わってはいけないと強く感じています。

Momoyo Ito



# 伊藤 桃代

いとう ももよ

徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部助教  
情報システム工学  
博士(工学)

**略歴**  
情報工学は世の中の全ての分野に関わっているので、卒業時に自分の興味に合った分野に進めると考え、秋田大学工学部情報システム工学に入学。学部卒業後、同大学大学院博士前期課程、博士後期課程を修了して現職に。



My Favorite

友人からプレゼントされたキーケース。

## 研究者はクリエイターだと思う

情報工学は世の中の全ての分野に関わっているので、卒業時に自分の興味に合った分野に進めると考え、秋田大学工学部情報システム工学に入学。学部卒業後、同大学大学院博士前期課程、博士後期課程を修了して現職に。

**恵まれた自分に甘えない**

所属研究室では、自由な雰囲気の中で研究をさせていただいて

**画像処理の新しい方法を求めて**

今のデジタルカメラには顔を検出する機能が付いていますが、そんなふうには画像から必要な情報を抜き出して利用するのが画像処理の例です。その画像処理技術と、人間の思考を機械で処理できるようにする知識処理を組み合わせたことで、知的画像処理の実現を目指したいと考えています。MRI装置で撮影した脳の画像を対象とした場合、診断時に有効な情報だけを自動的に抽出して医師の診断支援に役立てる研究を行っています。人間の脳は大きさや形に個人差があったり、撮像装置によって画像の特性が変わったりするので、その画像の差を機械が学習して、自動的に最良の処理を行うようにするのがポイントです。また、安全運転のサポートを目的として、運転手の心理状態を推定する技術を開発するために、運転中の動きを画像から解析する手法についても検討を行っています。この研究の難しさは、天候や時間帯が変わっても、安定した解析を実現する必要がありますがあるところです。これらの研究には色々な壁がありますが、クリエイティブでワクワクするテーマだと思っています。

**自分の立つステージ**

学部生時代は写真部に所属しており、カメラと勉強の割合が7対3くらいでしたが、今となっては後悔するところですね。そんなお気楽状態の私の目を覚ましたのは、「自分の戦う相手はどこにいるんだ？」という言葉です。ドクターコースへ進学する学生も少なく、競争意識の低かった私は、「自分がこの先、日本だけでなく世界の研究者を相手に研究をするなら、外に目を向けて、自分の現状を把握すべきだ」という言葉のある研究者の方に頂き、研究に対する姿勢を改めました。学生時代にいろんな経験を積むことはもちろん大切ですが、それ以上に自分が将来どんなステージで活動したいかを考えることが重要ではないでしょうか。同じステージに立っている人が、どんな研究をどんなレベルで行っているか知っておくことで、常に自分の行動を見直すきっかけになると思います。

Yumiko Izaki



# 井崎 ゆみ子

徳島大学保健管理センター  
准教授 博士(医学)

略歴  
徳島大学医学部を卒業後、精神科医を志し神経精神医学教室に入局、博士課程修了。  
地域の病院で精神医療に従事した後、大学病院勤務を経て現在に至る。



My Favorite

旅先の北海道で  
買ったポストカード。

## 学生たちの心のより所をつくりたい

**大切な役割**  
大学の仕事は研究というイメージからは少し遠いと思うのですが、学生や職員のメンタル面でのケアを担当しています。新入学生の健康診断時に、肉体重と同時にメンタル面のチェックも行い、気がかりな点のある学生をフォローしたり、不調や悩みを抱える学生の相談・診療にあたっています。入学時にそついったチェックを実施することは、学生の不調を早期に発見する目的もありますし、「何か困ったことがあればここにきて」と周知させる目的もあります。自宅から通う学生なら家族が本人の不調に気付いてあげることができませんが、一人暮らしだと誰にも気付かれないまま悩みが大きくなってしまふケースもあるので、特に気を付けるようにしています。

**私がこの職場で貢献できること**  
実際に持ち込まれる相談は軽い悩みから不眠、気分の落ち込み、体調が優れないといった不調から相談に来てくれる学生に対して、これからも一人ひとりに丁寧に向き合っていきたいなと思

それから人が怖い、研究室内の人間関係だったり様々です。カウンセリングすることで解決するものもあれば、病院での治療を必要とするものもありますが、私が赴任する前の徳島大学にはメンタルを専門とする方が常勤しておらず、嘱託の方が週1回ほどの割合で担当しておられましたので、常勤の医師がいることで、学生や職員が相談できる機会が増えるという面では貢献できていると思います。

**一人ひとりの悩みと真摯に向き合って**  
相談に来る学生に、私はまずここにきてくれたことへのねぎらいの言葉をかけるようにしています。そこから時間をかけて相手の本当に言いたいことや悩みの原因を引き出し、ゆくりとかかわっていくことが大切だと思います。普通の生活を送っている人でも、みんな悩みや気持ちの落ち込みを抱えることはあります。以前では物事を徹底的に、それでも他者に気を使いながら秩序を重んじてやりぬこうとする人にそういった傾向が強かったのですが、今はいろいろな人がいろいろな躰き方をしています。

Kayo Shinomiya

## 誇りある仕事を全力で

**「綺麗」と感じた眼科の手術**  
中学校から大学まで卓球部として練習に力を注ぎながらも、親が教師だったので教育熱心な家庭に育ったこともあり、中学が高校の時からは漠然と医師になりたいとは思っていませんでした。医学の中でも眼科になろうと思ったのは、手術に魅力を感じたから。変な言い方かもしれませんが、初めて眼球の手術を見せていただいた時、角膜や水晶体でできたほとんど透明な眼球の中で、ほとんど血も流さずに終わる手術に「すごく綺麗だ」と思ったんです。それに、目が見えるようになるというのは、患者さんにも回復の喜びが実感しやすいですね。その喜んでくれる姿をもっと見たい、という気持ちもあります。

### 弱視や斜視を中心に診療

一口に眼科医師といってもいろいろと専門分野に別れていますが、私は小児や弱視患者の視機能評価・斜視・眼窩疾患の治療にあたっています。週2回の外来診療をメインにしながら、視機能や眼球運動の評価・手術法などを研究しています。少し前になりますが、博士号を取ったのは、眼球を動かす時に角膜がプラスチック製の電極となつて発生する電圧についての測定法の研究でした。斜視はあらゆる年齢におこる疾患です。最近だとテレビタレントさんが斜視矯正の手術を受け



My Favorite

スケジュールや治療方針、  
心に残った言葉などを書き込んだ手帳。

たことで「斜視は治るんだ」という認識が広がりつつあって、治療を希望される方の数が増えています。  
**周囲の協力は 未来の自分への投資である**  
今は診療の割合が多く、研究にあまり時間を割けないのが悩みの種ですが、主人の両親と同居していますし、今度行くベルギーの学会には、ベビーシッターとして愛媛から私の母に同伴してもらったりなど、子育ての面でとても助けられています。家族だけでなく教室の先生方やスタッフがいろいろな協力してくれています。これらは、研究を成し遂げるための投資をしてきているのと同じです。研究者として活動する以上、何か発見をしてその分野の発展に貢献できればどんなにすばらしいだろうと常々思っています。「誇りある仕事を全力で」、それが座右の銘です。

# 四宮 加容

しのみや かよ



徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部講師  
眼科学分野(医学系)  
徳島大学病院 眼科病棟医長  
博士(医学)

略歴  
1995年3月愛媛大学卒業。同じ大学に通っていた夫との結婚を機に徳島へ移り住み、同4月より徳島大学の眼科に入局。  
2008年に医学博士取得。眼科専門医、指導医。